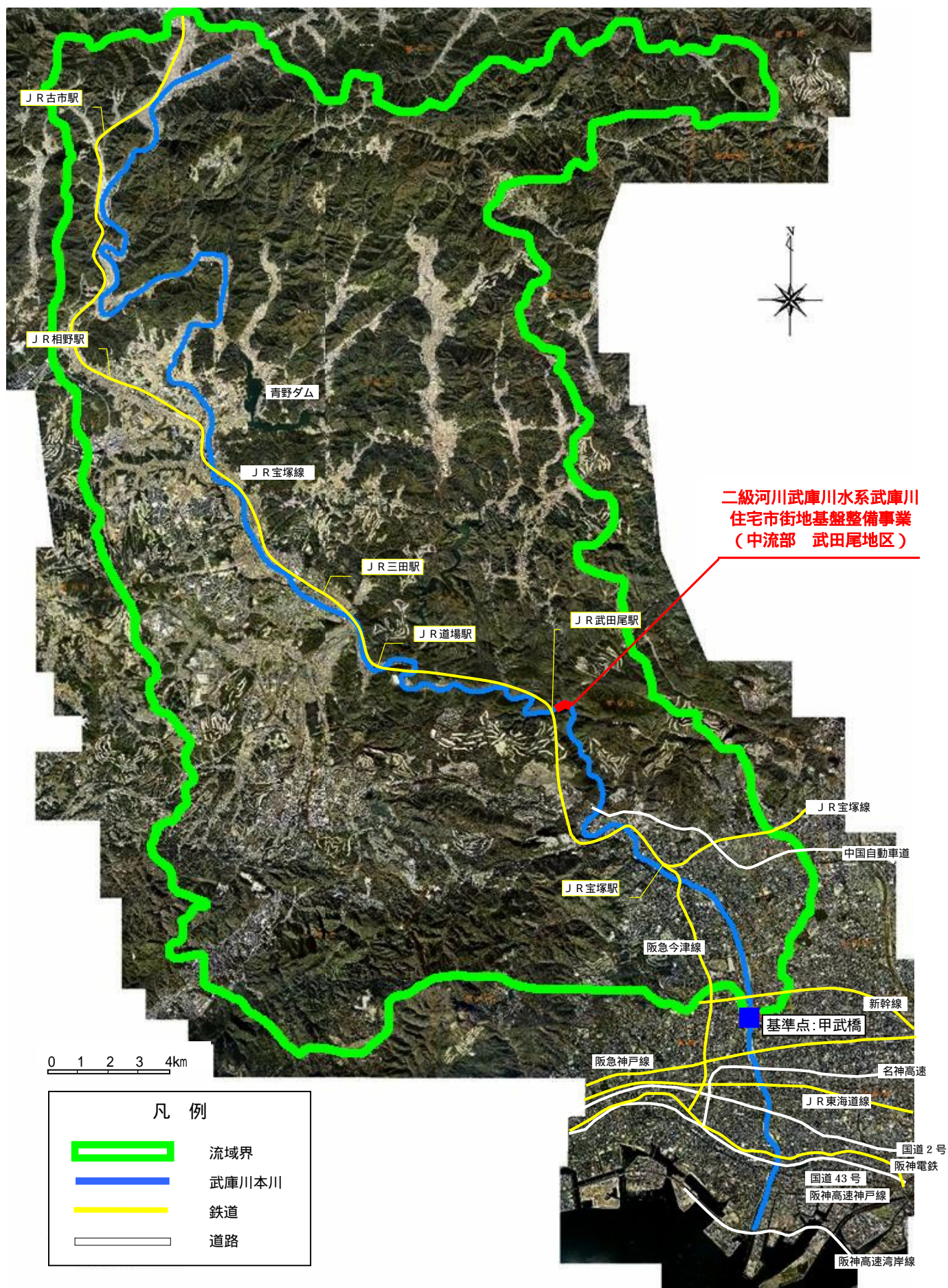


# 投資事業評価調書（新規）

部課室名	県土整備部土木局 河川整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	河川整備課長 松本 正利 (都市河川係長 山本良太郎)	内線	4408 (4417)
事業種目	河川事業	事業名	事業区間	総事業費	8億円
		二級河川 武庫川水系 武庫川 住宅市街地基盤整備事業 [武田尾地区]	宝塚市玉瀬	内用地補償費	3億円
所在地			着手年度(予定)	完成年度(予定)	
宝塚市玉瀬			平成 25 年度	平成 30 年度	
事業目的			事業内容		
<p>武庫川の中流部（武田尾地区）では、浸水被害が頻発しており、平成 16 年台風 23 号でも甚大な被害を受けた。平成 23 年 8 月に策定した「武庫川水系河川整備計画」に基づき、戦後最大洪水(昭和 36 年 6 月洪水)と同規模の計画流量 2,600m<sup>3</sup>/s により河川改修を行い、地域住民が安全で安心して生活できる環境を確保する。</p> <p>なお、本事業を含む武庫川水系では「河川対策」に加え、総合治水条例の考え方にに基づき、流域の保全機能を維持するとともに、校庭貯留やため池の活用等を図る「流域対策」、浸水被害が発生した場合にも被害軽減を図る「減災対策」を組み合わせた総合治水対策を推進する。</p>			・計画目標 戦後最大洪水(S36.6)への対応		
			・計画流量 2,600m <sup>3</sup> /s		
			・事業費 8億円		
			・整備延長 430m		
			・主要工種 築堤、護岸、掘削、県道付替 〔負担割合 国：1/2、県：1/2〕		
			【関連事業】		
			・武庫川流域治水対策河川事業 継続		
			(下流部掘込・築堤区間、新規遊水池、上流武庫川工区)		
			・武庫川総合流域防災事業(堤防強化) 継続		
			・武庫川流域貯留浸透事業 継続		
評価視点		評価結果の説明			
(1)必要性		当該箇所の現況流下能力は 1,100m <sup>3</sup> /s で、計画流量 2,600m <sup>3</sup> /s の 4 割程度。昭和 58 年、平成 11 年、平成 16 年と度重なる床上浸水被害に見舞われている。平成 16 年台風 23 号では、床上浸水 25 戸、床下浸水 1 戸の浸水被害が発生。水位状況に応じて回転灯やサイレンの作動を行う洪水危険情報通報システムを設置し、危険情報を周知しているが、地域住民の安全・安心のため、早急に河川改修を実施し、再度災害防止を図る必要がある。(平成 22 年度に避難勧告を 2 回、平成 23 年度に避難準備情報を 4 回発令)			
(2)有効性・効率性		・B/C = 14.1 (対象：河川整備計画で実施予定の事業のうち、本川整備にかかるすべての事業)			
		・武庫川流域には人口・資産が高度に集積しており、県下でも重要な河川であるため、戦後最大洪水への対応を確保することにより、阪神地域全体の経済・地域振興に寄与する。			
		・築堤工事等で必要となる盛土材約 2 万 m <sup>3</sup> は、新名神関連工事等により発生する残土を有効活用してコスト縮減を図る。			
		・当該箇所の河道拡幅(引堤)に必要な河川用地は、宝塚市武田尾土地区画整理事業(仮称、組合施行)と連携し、確保することで、効率的な事業執行を図る。			
(事業執行環境)		・浸水被害が頻発しており、本事業に対する地元要望も高く、地元住民等の全員同意により、平成 24 年 4 月に組合設立準備会を設置した。平成 24 年度中には土地区画整理組合を立ち上げ、事業着手する予定となっており、事業執行環境は整っている。			
(3)環境適合性		・本川改修では、河道内工事を行わないため、生物の生息環境への影響はない。			
		・支川僧川では、河道内工事を行うことから、環境配慮型ブロックを採用し、隠れ家となる空間や植生に配慮することにより、重要な種のカジカガエルなど河川内に生息する生物の生息環境や餌場を確保する。			
(4)優先性		・宝塚市武田尾土地区画整理事業(仮称)による地域整備と一体となり、河川を改修し、家屋浸水防止を図るもので、優先性が高い。			
【事後評価】		・完成断面における流下能力の検証			
対象 対象外		・工事完成後のモニタリングによる生態系の保全状況の確認			

## (二)武庫川水系武庫川 住宅市街地基盤整備事業 計画平面図





# 【中流部 武田尾地区 整備計画平面図】

